



秋元 澪伽 (アキモト ミオカ)

千葉県立市川工業高等学校 建築科

## エーデルワイスリゾート

～子供からお年寄りまで家族みんなで楽しめるホテル～

昨今、核家族化して夫婦と子供だけで生活して、3世代で暮らしている家族はどんどん減っている。

祖父母と年に数回しか会わない現状がある。家族みんなで過ごす時間を増やしたほうが良いと考えた。

家族みんなで過ごす時間をもっと増やせば、妻の両親と夫の両親の仲も良くなり、姑問題も減るかもしれない。

そこで子供からお年寄りまで家族みんなが楽しめるホテルを設計した。

今回参加した全作品（高校生+大学生）の中で、最もタイトルが長い作品である。このタイトルからは、自己の感覚に立脚して社会を眺め、そこから素直にテーマを導き出していることが伺える。それは、とても大事なことだ。

そのテーマの一つは家族である。ネット上の仮想空間と個人がつながる時代、またAIの機能が飛躍的向上することで、機械と人間が繋がりがつつある時代であるからこそ、家族という言葉に象徴される「個と個の繋がりをどう再構築していくのか？」は、社会の大きなテーマである。

また、そのつながりを結び直す場を、商業空間であるホテルに求めたということも新しい発想であると受け止めた。基本的に客室単位で分離されているホテルが、家族だけでなく、世界中から集まる様々な人々をつなぐ場になったら、それはとても素晴らしいことだと思う。

そして、建築設計という職能は、自己と社会の関わりの中から問題点を見つけて、そのテーマを分かり易く空間に翻訳していくことである。もし、これからも設計に関わっていくとしたら、このことを忘れないで欲しい。

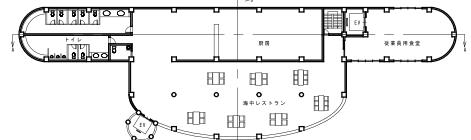
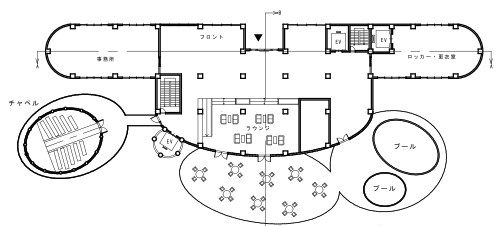
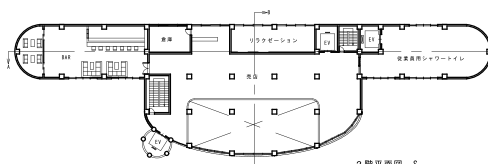
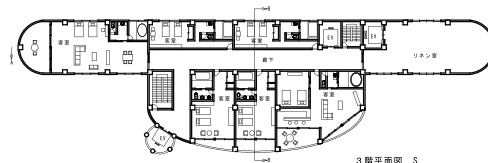
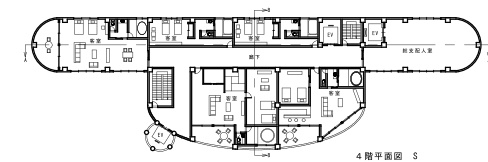
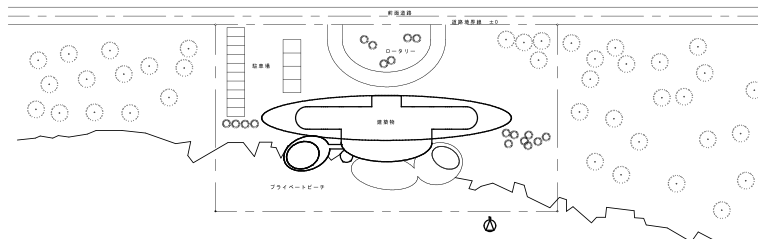
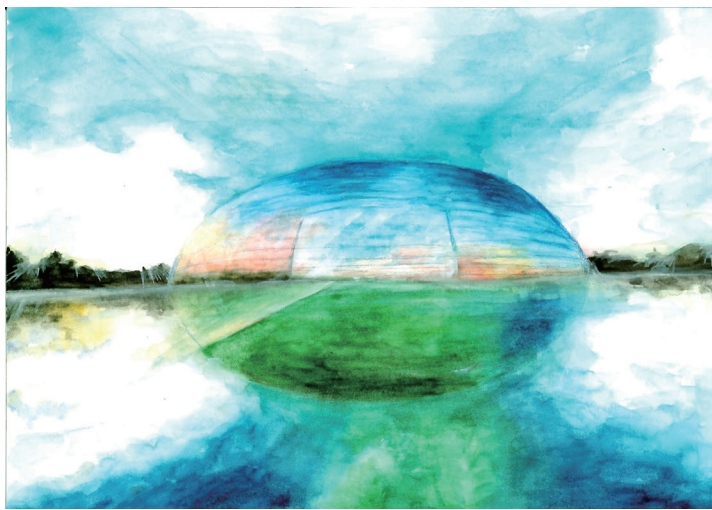


審査員：安田 俊也

# エーデルワイスリゾート

～子供からお年寄りまで家族みんなが楽しめるホテル～

昨今、核家族化して夫婦と子供だけで生活して、3世代で暮らしている家族はどんどん減っている。祖父母と年に数回しか会わない現状がある。家族みんなで過ごす時間を増やしたほうが良いと考えた。家族みんなで過ごす時間をもっと増やせば、妻の両親と夫の両親の仲も良くなり、姑問題も減るかもしれない。そこで子供からお年寄りまで家族みんなが楽しめるホテルを設計した。



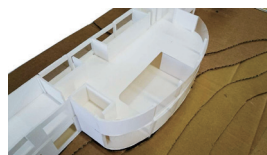
以前、家族で宿泊したリゾートホテルは、バリアフリーになっていないところが多かった。そして、子供や高齢者が行きにくい高級感があり、行っても楽しめないなどの不満を感じた。だから小さい子供からお年寄りまでいろいろな世代の人たちが楽しめるようなホテルを作りたいと思った。



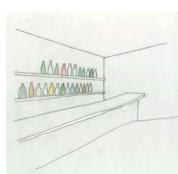
海中レストランで、魚を見ながら食事をする。



海側から見るホテル

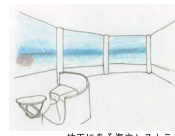


2階の吹き抜け部分  
1階のラウンジと繋がる。

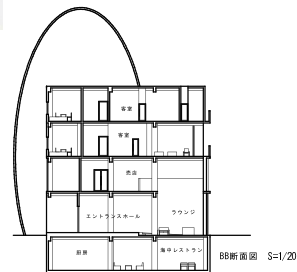


BARの雰囲気

昼は子供と一緒に  
夜は一人の時間を楽しむ



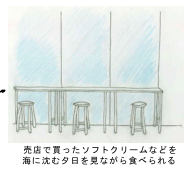
地下にある海中レストラン



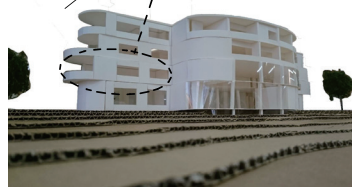
B-B断面図 S=1/200



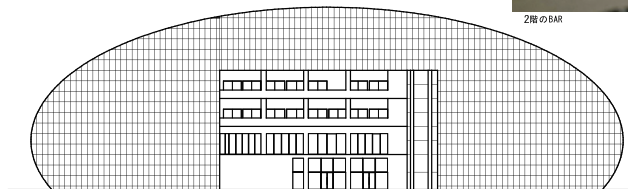
2階のイトインスペース



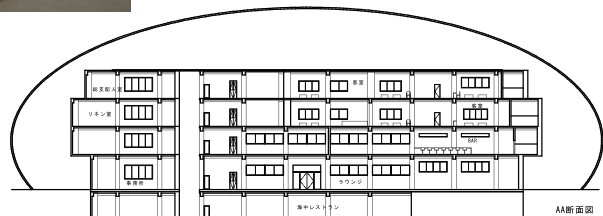
売店で買ったソフトクリームなどを  
海に沈む夕日を見ながら食べられる



2階のBAR



南側立面図 S=1/200



A-A断面図 S=1/200